學徒出陣に全半島邁進[[1]](#footnote-1)

晴れの壯途へ後盾　　在城有志が學徒指導に奮起

この好機を逃さば悔を千載に殘さん、1人の落後者も出すな、と半島學徒に與へられた臨時特別志願兵制の光榮把握へ、いまを最高潮に沸る半島の雄叫びはつひに二千五百萬の總意となつて、半島の中核有識上層人をゆすぶり起し、臨時特別志願兵制度翼賛委員會なる半島學徒の逞しき出陣を激勵する感激の會合が四日午後四時から京城和信六階會議室で開かれ、けうぞ半島學徒の蹶起を期待してやまない大いなる壯途へ、強い愛情籠る指導方策を打樹てた

この日集ふは

琴川寛、朴興植、高元勲、金晟鎭、山本文華、伊東致昊、中本弘鍾、松村紘一、芝村定幸、柳大尉、井原貞圭、元村肇、新本一浩、竹田起、韓相龍、梧村升□、香山光郎、閔奎植、權寧雨、平山中佐、永河仁徳、宋鎭禹、福澤玲子、八幡昌戌、高永珣、兪億兼、夏山茂、大倉□、草内興洙、松山衡石、井垣圭復、辛島純、玉山友彦、梁川在昶、鈴原□、金億錫、呂運弘、宮村淑□、申弼浩、金原邦祐、徳山白洵、徐椿、海東孝明、朝野晴義、大山光□、李奎載、沈浩燮、金川大尉、平松瑛祥、外町總代四十八名

のに朝から久参、蒲中、盟から長が吉村參事とにして、こゝに半學の前をふ前の豪ぶれをへる、一同高する緊張とを面にはせて定國儀にまつた員會は山茂氏からけふの開會に至るまでの過報告あつて場のに迎へられて伊東昊氏が長に着、ついで蒲中佐が一同のに輝いてけふぞ拓かれた半學の時特別兵度に對してそのと半の使を説明、愈々指方法を審議、終つて別のく實行員決定、文を、平山輔英中佐から指要について説明があり、最後に久参起つて

先に壯烈を極めて南鮮に展開した京城師團大演習における現地半島民衆の熱誠溢れる協力、歓待ぶりから半島志願兵の活躍狀況を説いて、半島のこの熱意、この赤誠は必ずやこのたびの半島大學專門學徒に與へられた臨時特別志願兵制度の大いなる成果を舉げ得ることを信じてやまない

とがあつて同七時半會した

1. 1943年11月5日付『京城日報』朝刊 [↑](#footnote-ref-1)